

設立20周年を迎えて

副支部長 西成田 史郎

北海道支部との関わりは、18年前に義姉がALSの疑いがあると医者に言われました。今と違い自力で病気の事を調べることが簡単に出来なかった時に、偶然新聞記事で見かけた苫小牧での患者、家族の相談会兼交流会でした。義姉と妻と3人で参加しました。病気の事等何も分からない私たちに親身に相談に乗ってくれました。確定したわけじゃないからセカンドオピニオンを受けたらと、役員の方は病院まで付き添ってくれました。当時は患者、家族の方々は病気に対する不安を話していたのを覚えています。その後支部独自のバザー、コンサート等に参加するうちに役員をやる事になりました。この相談会で受けた恩愛が現在の私の支部活動の原点です。

会 計 谷 津 和 代

今から14年前に夫を亡くし、悲しみに暮れ、絶望の縁にいた所、TさんからALS協会の事を教えて頂きました。

その後、事務局のMさんと出会いました。

Mさんは様々な場面で助けて下さり、また時に心の支えとなって下さいました。

Mさんとのご縁から、ALS協会北海道支部の運営委員の一員として迎えて頂く事となりました。

今は会計として、少しでも皆様のお役に立ちたいと思い、北海道支部の活動に参加させて頂いております。今後とも、宜しくお願い致します。

運営委員 外崎 裕子

設立20周年おめでとうございます。会を立ち上げ、そして継続することは、大変な苦労があったかと思えます。療養環境を作り上げ、後から続く仲間のために日々活動し、時には役所に行き陳情し、時には遠方に出向き相談にのる姿を拝見して、人はこんなにも相手のために親身になれるものなのかと驚いたことを覚えています。設立当初からの信念が、脈々と受け継がれていることを感じます。広い北海道、地方にお住いの方々は身近に語り合える仲間がいないことも長年の課題でした。今年度から始めたオンライン相談会を通して、北海道全域でつながりが持てることを心から願っています。

編集後記

コロナ禍において、北海道支部設立20周年特集の絆102号を無事発行することができました。これもひとえにご祝辞お寄せいただきました方々、発行に関わった関係者の皆様のお陰でございます。本当にありがとうございました。

私自身2013年から北海道支部のお手伝いをしていますが、今般特集号の編集にあたり過去の絆を拝見させていただきました。当時は北海道支部設立当初ということで、全道各地で交流会を開催し、ALSという病気と北海道支部のPRに努めていました。その行動力に感心すると共に現在があると思います、当時の役員の方々に敬意を払うものです。先人に感謝、感謝・・・ S.Y